

せみた 蟬田遺跡 (第2次)

遺跡番号 208-151
調査回数 第2次
所在地 山形県村山市大字西郷
北緯・東経 38度29分45秒・140度22分13秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道(東根～尾花沢間)
調査面積 5,000㎡
受託期間 平成25年4月1日～平成26年3月31日
現地調査 平成25年5月23日～12月13日
調査担当者 齊藤主税(現場責任者)・庄司昭一・吉田満
調査協力 東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・村山東根土地改良区・村山市教育委員会・
山形県教育庁村山教育事務所

遺跡種別 集落跡
時代 平安時代・近世・近現代
遺構 溝跡・土坑・柱穴
遺物 土師器・須恵器・陶磁器・石製品・木製品・金属製品 (文化財認定箱数: 20箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

蟬田遺跡は村山市名取西郷地区に所在する。遺跡の西側には、最上川と蟬田川が南北方向に蛇行しながら流れる。周辺の地形は沖積地で水田が広がる。また、遺跡付近は浮沼^{うきぬま}という地名があり、名の由来通りに地盤の柔らかい場所に遺跡が立地している。

本遺跡は平成24年度に調査面積6,000㎡の1次調査が行われた。1次調査では平安時代、9世紀後半～10世紀前半の掘立柱建物跡・土坑・河川跡・溝跡などの遺

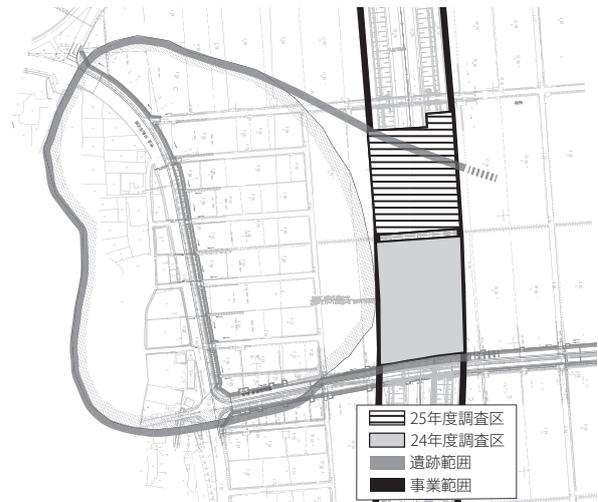


図1 調査概要図(縮尺任意)

構が検出された。その中でも河川跡からは土師器・須恵器・木製品など大量の遺物が出土した。

特に完形の土師器環が多数出土したことで、各種の木製品が出土したことが注目された。木製品には斎串^{いぐし}・形代の祭祀遺物、鋤・鍬^{さいしいぶつ}・横槌などの農具、漆器・扇・横櫛・下駄・曲げ物・盤などの生活具、高床の床板・柱根などの建築部材など豊富な種類がある。

これらの木製品には付け木も多数含まれるが、付け木の他にも端部が炭化した板状品、棒状品が多いのが特徴

的である。この他に墨書土器や少量だが木簡も見られる。

2次調査は1次調査区の北側に隣接する地区の5,000㎡について調査を実施した。調査区の東側は20cm程の表土で地盤が赤褐色土で固く締まる。西側の中央から南部では検出面まで1m以上で軟弱地盤である。

遺構と遺物

検出された遺構は、溝跡、土坑、ピット等で、主に平安時代の遺物が出土している。

溝跡は調査区東側で確認されており、地形が北から南へ低くなっていることから、北から南へ流れていたことが推測される。調査区南東部分で検出された溝跡は平安時代、またSD130溝跡は、近世～近代にかけてのものと思われ、杭が打ち込まれた痕跡や人頭大の川原石が敷き詰められている状況から堰跡と見られる。SD130からは、近世の陶磁器や近代のガラス瓶等の他に、平安時代の土師器、須恵器も出土している。

土坑は調査区の東側を中心に確認されている。規模・形・堆積土等異なった様相を呈している。須恵器甕の破片が検出面で確認された土坑(SK141)、遺構の周縁部に白い堆積土が廻る土坑(SK115)等、平安時代の土坑が

多くを占めている。SK111土坑からは板4枚を組み合わせた箱型の木製品(縦約40cm、横約25cm)が出土している。板の組立てには断面が四角い鉄釘が用いられており、これは江戸時代まで使用されていたと考えられている。また横長の取っ手穴が一对あいている。遺構上面から江戸時代の陶磁器片が一個出土している。用途は不明である。

上記遺構の他に、性格不明の土坑状の竪穴が確認された。主に地形の低い調査区中央部に集中している。土層の堆積を観察すると、木が倒れたような痕跡(風倒木)と想定される。

平安時代の遺物は土師器・須恵器等の坏・甕が出土している。また近世以降の遺物は陶磁器、木製品、古銭等が出土している。

まとめ

今回の調査では、主に平安時代の遺構・遺物が検出された。遺構は特に調査区東側の標高の高い地区に良好に遺存し、西側の低い部分では遺構数は少なくなる傾向にある。昨年の調査成果と併せ、さらに東側に遺跡が広がることが考えられる。



写真1 25年度調査区全景(北から)



写真2 SK112土層断面(南から)



写真3 SD130土層断面(北から)

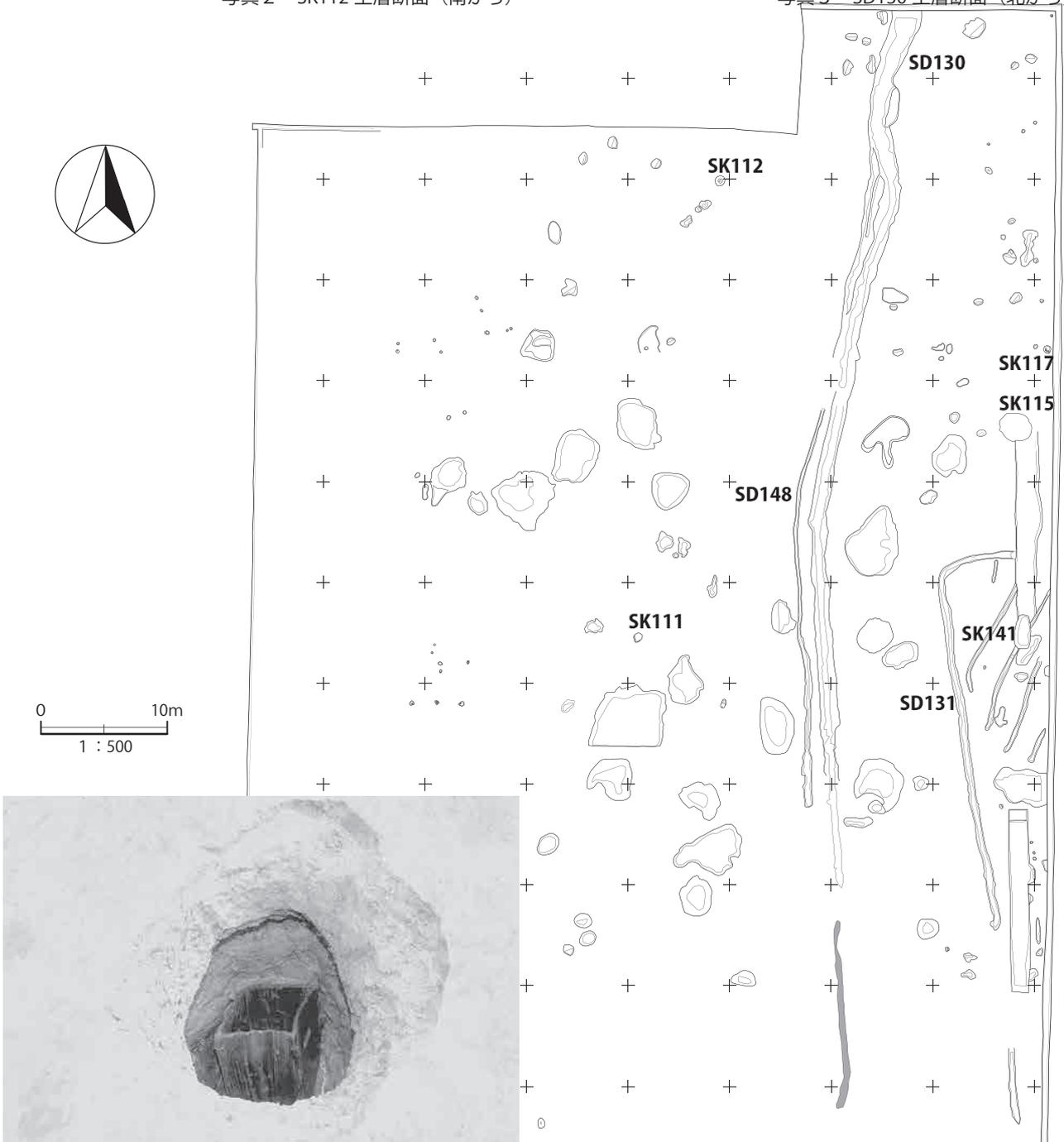


写真4 SK111木製品出土状況(南から)

図2 遺構配置図 (S = 1/500)



写真5 SK115 検出状況（南西から）



写真6 SK115 土層断面（北西から）



写真7 SK115 完掘状況（南東から）



写真8 SK141 遺物出土状況（北西から）



写真9 24年度調査区全景（東から）